模擬国連会議全米大会
第37代日本代表団派遣事業

Guide Book

目次

運営統括挨拶・・・

運営統括挨拶

皆さま、こんにちは。模擬国連会議全米大会第37代日本代表団派遣事業運営局にて運営統括並びに団長を務めております、坂本知陽と申します。

全米団に興味を持ってくださったこと、またこのガイドブックを手にしてくださったこと、大変嬉しく思います。

さて、当事業は、2年間のプログラムで、団員期の団員育成プログラム・渡米と局員期の次期団員のサポートを含む当事業の運営で構成されています。4年間の大学生活のうち2年を費やすことになるプログラムに参加するか否かを決めることはとても大きな選択になることと思います。

だからこそ、このガイドブックに目を通していただき、大学生活で何をしたいのかをじっくりと考えていただければと思います。

皆様が最適な選択をするための一助になれば幸いです。

2019年6月2日

模擬国連会議全米大会第37代日本代表団派遣事業

運営統括・団長 坂本知陽

全米団事業とは

全米団事業とは、日本模擬国連に所属し模擬国連活動を行う全国の学生の中から選抜された9名程が、日本代表団として全米大会に参加する事業です。当事業は、日本模擬国連(JMUN : Japan Model United Nations)の主催事業の一つであり、多くの財団様や企業様、顧問の先生方やJMUN会員の皆様のご支援の下、前年度に渡米した団員によって運営されています。

当事業は、1983年に第1代が派遣されて以来、今年で37年目となる歴史ある事業です。当事業で派遣された日本代表団は、過去参加した36回の大会中23回表彰され、2008年以降は12年連続での受賞であり、高い評価を得ております。

大会に参加するだけでなく、団員は渡米前に団員育成プログラム(DDP : Delegates Development Programme)に参加し、政策立案能力を始めとした全米大会で必要な能力に加え、社会に出てからも役立つプレゼンテーションスキルなどを身につけます。そして、例年渡米前に政策発表会にて自身が全米大会に持って行く政策を発表します。渡米中は、提携校の生徒と政策調整を行ったり、国連職員の方からブリーフィングを受けたりします。また渡米後は、次代団員を大会に送り出す為に、DDPの設計、資金管理、渡米の引率など、一つの大きな事業を運営することになります。このような運営の活動も含め、当事業は学生に貴重な経験を提供しております。

また、当事業のOBOGの方々は、国連職員、国家公務員、大学教授、弁護士のほか、様々な企業に就職され、国内外問わず多方面でご活躍されています。

模擬国連全米大会とは

模擬国連会議全米大会(National Model United Nations Conference New York)は、毎年3月から4月頃に、アメリカのニューヨーク市内のホテルと国連本部の会議場を使用して開催される模擬国連の世界大会です。

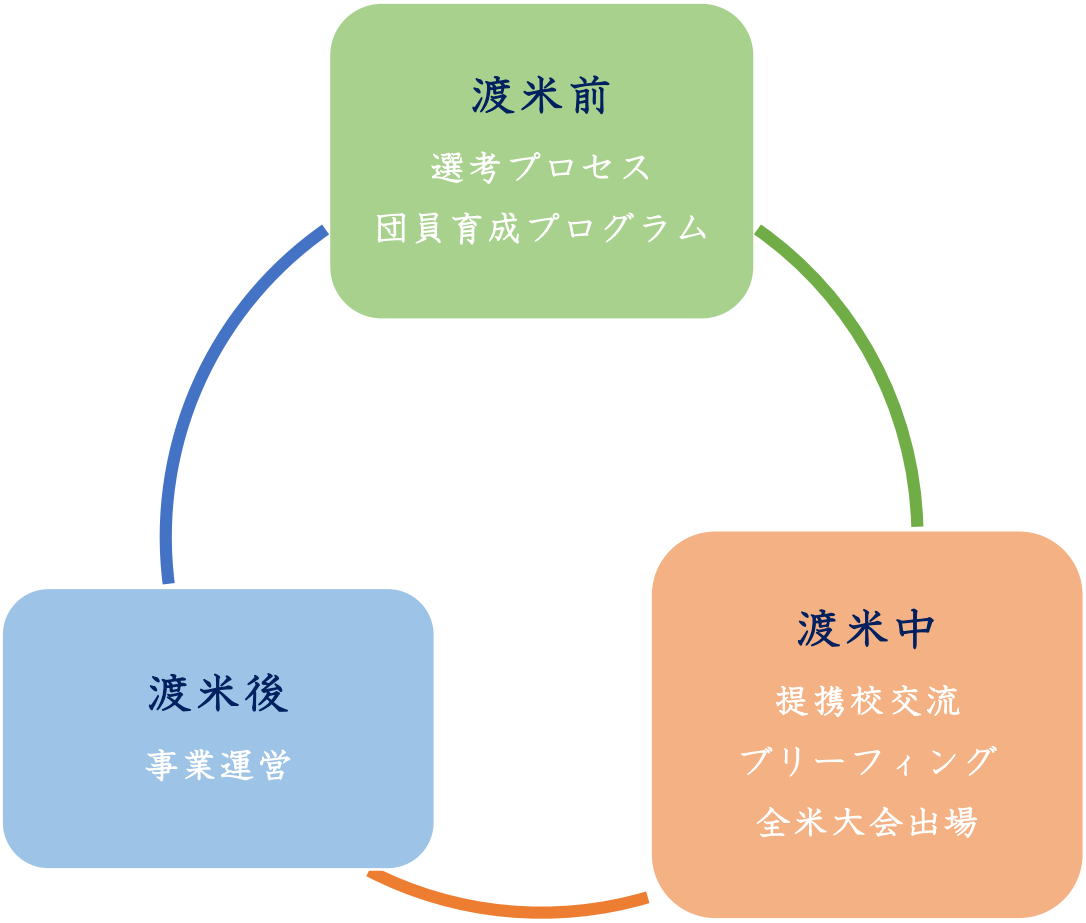
本大会は、世界中で行われている模擬国連会議の中でも最大規模を誇る大会であり、アメリカを中心に、30カ国以上から5000人以上の学生が参加します。

例年20もの国連機関や国際機関の模擬会議が設定されており、参加者は国連加盟国やオブザーバー、あるいは非政府組織の代表としてそれぞれの会議に参加し、議論・交渉を行います。

全米大会は毎年大変な盛り上がりをみせており、国際的な評価も年々高まっています。

過去2年の日本代表団の参加議場は、国連総会の各委員会や国連難民高等弁務官事務所、国連児童基金、平和維持活動特別委員会、化学兵器禁止機関、国際移住機関などでした。

全米団の活動について



例年10月下旬ごろに全米団員が決定され、団員としての活動がスタートします。全米団の活動は渡米前、渡米中、渡米後の大きく3つに分けることができ、以降のページでは団員決定後の第36代の活動を中心に紹介いたします。なお、今年度のプログラムではございませんのでご注意ください。

渡米前
選考プロセス
団員育成プログラム（DDP）

選考プロセス

「全米団」での成長に向けてTAKE OFF

2018年の選考は9月から10月下旬にかけて行われ、主に、面接、論文課題、選考会議から構成されていました。面接は 関東と関西にて行われ、選考会議は関東で行われました。選考会議では、同じ目標に向かって真剣に取り組む、応募者が一同に会し、密度の濃いものとなりました。選考プロセスが全て終わると、参加者全員に今後に役立つフィードバックが行われました。
＊これはあくまで前年までの様子の紹介です。選考内容は毎年変わります。

選考プロセス担当より
今年度の全米団の選考コンセプトは、「他者に、己に向き合え」です。選考では、多面的な能力や深い思考が求められる課題と向き合うことになります。選考プロセスに参加することで、未来の団員はもちろん全ての参加者の皆様が成長するチャンスになると考えています。
詳細な選考内容や日程は、選考応募開始(8月1日)と同時に開示される応募要項に掲載されます。皆さまの挑戦をお待ちしております！

（紹介者：横山咲希）

よくある質問(P.31)の選考に関する記述もご参照ください。

団員育成プログラム (DDP)

成長のために綿密に練られた準備期間

11月から2月までの5ヵ月間に渡って行われるプログラムです。前年に渡米した局員と渡米予定の団員が一対一でペアを組み、苦手克服や政策立案の指導を各々に合わせて行う個人DDPと、月に二日ほど局員・団員が一堂に会し、パブリックスピーキング能力等を鍛える全体DDPの二つに大きく分けられます。当事業の目的である「国際社会で活躍できる人材の輩出」に基づき、全米大会に備えるためだけでなく、実社会でも活用できる多様な能力を団員に身につけてもらいます。具体的には、グループディスカッションやプレゼンテーション練習等を行うことで、集めた情報を整理、分析し、自分の意見を形成する主体的な思考能力や、その意見を日本語でも英語でも相手に分かりやすく伝え、説得できる発信能力を磨きます。多くの聴衆を意識し、注目を集める方法や一度で理解してもらえる効果的な発信方法に必要なテクニックも鍛えます。OBOGの先輩方からもアドバイスをもらえます。

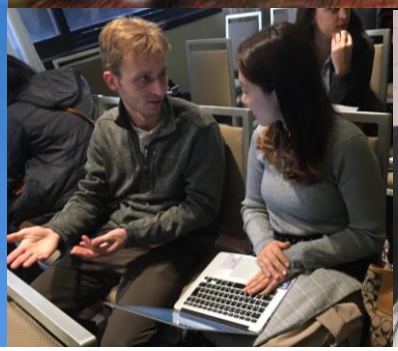
DDPでは、プレゼンの練習や国際問題の構造・原因分析を通じて全米大会に参加するに際し有用な能力を育てていきます。これらの能力は全米大会のみならず、仕事や学業など多岐にわたる方面で役に立ちうるものだと思います。日々の生活を送るだけでは伸ばすことが難しい能力分野に焦点をあてたDDPを企画していくつもりです。

（紹介者：水田光）

渡米

提携校交流
ブリーフィング
全米大会出場

提携校交流



全米団だからこその提携校交流

例年全米団はアメリカの大学と提携し、合同代表団(Joint Delegation)という形で全米大会に参加します。第36代はテキサスクリスチャン大学と提携しました。全米大会では、基本的に2人で1か国を担当するため (Pair Delegation) 、日本の団員はアメリカの学生と1対1のペアを組みます。渡米前から連絡を取り合い準備を進めます。渡米すると、まず約一週間提携校の所在地に滞在し、実際に対面して最終的な政策調整や会議行動の分担を行い、大会に備えます。ペアの学生の多くは全米大会経験者が多く、彼らの姿に刺激を受けつつ、団員も全米大会へのモチベーションを高めることができました。

提携校の生徒や教授との交流では、全米大会に関する事をはじめ、提携校があるテキサスの文化や歴史まで多くのことを教えていただきました。また、渡米前の準備段階でもポジションペーパー（議題に関する担当国のスタンスをまとめたもの）の中身について相談し合い、共同で１つのポジションペーパーを書き上げました。

大会中は知り合いがほとんどいない環境で日本とのルールの違いや言葉の壁で苦労する事もありました。しかし、ペアが私たちの不安な気持ちに寄り添い、困った時には必ず助けてくれたことで5日間の大会を無事に終える事が出来たと思います。

（紹介者：中村紫英理）

ロールモデルから得られる学びと刺激

毎年、団員が参加する会議や興味の分野に合わせた国連機関並びに日本政府代表部を渡米2週目に訪問し、ブリーフィングをしていただいています。議題への理解を深め、また各人の将来を見つめるためにも重要な機会となります。勤務されている機関での日々のお仕事の話や現場での体験談、ご自身のキャリアに関するお話を伺ったほか、団員からの踏み込んだ質問にも応じていただき、深いお話を伺うことができました。

私(出来)はNMUNに向けて国連平和維持活動(PKO：Peacekeeping Operation)についてリサーチをしましたが、様々な国際機関でPKOに関するお話を伺うことができ、とても興味深く感じました。特に、本やインターネットを使ったリサーチでは手に入らなかった情報を教えて頂いた際は感慨もひとしおでした。

（紹介者：出来悠果）

第36代が参加したブリーフィング先の例

国連日本政府代表部

大使として最前線でご活躍される星野氏から、日本外交とそれを取り巻く世界の状況についてのお話と、人間の安全保障の取り組みに関するお話を伺いました。星野氏は全米団OBであられることから、全米団の経験と現在のご自身を結び付けたエピソードも共有してくださいました。

UNDPO（国連平和活動局）

紛争に関わる各勢力の利害調整や和平交渉に携わっていらっしゃる専門家から、現代の紛争の特徴や平和維持活動についてお話を伺いました。また、我々にご自身の派遣経験を交えつつ避難キャンプの現場についてもお話をしていただきました。

UNDP（国連開発計画）

UNDPの活動内容についてお話を伺いました。また、ご自身が現在活躍されている「危機予防回復(CPR: Crisis Prevent Recovery)」の分野についてと現在行われているSDGs促進プロジェクトについてもお話していただきました。

UNICEF（国連児童基金）

UNICEFがどのような理念をもって活動しているのかといった全体的な内容と実際の現場での派遣経験についてお話を伺いました。また、団員の質問を踏まえつつUNICEFの他機関との違いや、協力体制についても説明してくださいました。

UN Women

国連女性の地位委員会(CSW：United Nations Commissions on the Status of Women)の会合期間で大変お忙しい中、多くの職員の方々がブリーフィングを行ってくださり、政治における女性のエンパワーメント・児童婚・ジェンダーに基づく暴力についてお話しをしてくださいました。

毎年、ブリーフィング先は団員の興味関心に基づき決定されます。ブリーフィングの訪問先では、全米団のOBOGの方が多くご活躍されています。全米団OBOGのブリーファーを含め、国際社会で最前線に立ち活躍されているみなさんから聞くお話は、非常に貴重なものでした。

全米大会出場

次につながる「世界」からの学び

全米大会は約3週間の渡米プログラムのメインイベントです。大会期間は 5 日間で、例年、主に会議はニューヨークのホテルで、閉会式は国連本部で行われます。第36代日本代表団はオランダ政府代表部として各々の会議に参加しました。第36代団員は、各会議で奮闘し、ペアと協力し、DDPで練り上げた自国の政策をDraft Resolution(決議案)に盛り込み、粘り強く交渉しました。その結果、日本代表団とテキサスクリスチャン大学の合同代表団は、優秀大使団賞(Distinguished Delegation Award)と7つのPosition Paper賞をいただくことができました。優秀大使団賞は2年連続の受賞でした。

私(向後)は全米大会では国連総会第二委員会(GA2)においてエネルギーに関する議論を行いました。GA2では世界中から集まった大学生が2人1組で193か国と2つのオブザーバーの大使を担当しており、日本の模擬国連では経験したことのないようなスケールの議場でした。各国の大使は似たような論点ごとにworking group(作業部会)を組んで議論・交渉を重ね、Draft Resolutionを作成します。私はとあるworking groupにおいてDraft Resolutionの作成を主導する、いわゆるマスターの役割を務めました。Draft Resolution提出後に一緒のworking groupに参加していた大使から労いや感謝の言葉をかけてもらい、素直にうれしかったです。多少の言語の壁はありながらも全米大会でマスターを務めた経験を糧に今後の模擬国連会議にも励んでまいります。

（紹介者：向後大翔）

第36代団員の参加議場と議題

坂本 知陽
参加議場：国連環境総会
（UNEA：United Nations Environment Assembly）
議題：Addressing Marine Plastic Litter and Microplastics

尾島 百合子
参加議場：国連児童基金
（UNICEF：United Nations Children's Fund）
議題：Eliminating Violence against Children and Youth

向後 大翔
参加議場：国連総会第2委員会
（GA2：General Assembly Second Committee）
議題：Ensuring Access to Affordable, Reliable, Sustainable, and Modern Energy for All

高橋 理都子
参加議場：国連女性機関
（UN Women： United Nations Entity for Gender Equality and the Empowerment of Women）
議題：Supporting the Involvement of Women in Governance and Decision-Making

出来 悠果
参加議場：平和維持活動特別委員会
（C-34：Special Committee on Peacekeeping Operations）
議題：Mainstreaming Gender in Peacekeeping Operations

中村 紫英理
参加議場：世界保健機関
（WHO：World Health Organization）
議題：Antibiotic Resistance as a Threat to Global Health

日山 実乃里
参加議場：国連難民高等弁務官事務所
（UNHCR：Office of the United Nations Commission for Refugees）
議題： Strengthening the Capacity of Refugee Resettlement Countries

水田 光
参加議場：国連総会第1委員会
（GA1：General Assembly First Committee ）
議題：Nuclear Disarmament and International Security

横山 咲希
参加議場：国連総会第3委員会
（GA3： General Assembly Third Committee ）
議題：Strengthening Humanitarian and Disaster Relief Assistance

渡米後

事業運営

運営の流れ

帰国後、団員は全米団事業運営局員として当事業の運営の担い手となります。財団様や企業様、顧問の先生方やOBOG の方々などとの繋がりが深い当事業の運営を通じ、国際問題の社会的認知の推進、模擬国連活動の発展、 国際社会において活躍する人材の育成を目指しています。以下、運営の大まかな流れを簡単に説明します。

報告書作成・事業報告会：5月～6月

渡米を終えた団員は、渡米経験を、模擬国連活動に携わる学生、支援してくださっている財団様・企業様、顧問の先生方やOBOG の方々にお伝えするべく、事業報告書を執筆し、その後事業報告会を開催します。そしてこの事業報告会をもって正式に運営代が先代より引き継がれ、団員は運営局員となります。

選考プロセス：8月～10月

団員は帰国後から、次代の選抜に向けて、 選考プロセスを設計していきます。具体的には、選考基準と各種のコンテンツを決定し、一連の選考プロセスを計画します。9～10 月に選考プロセスを実施して次代派遣団員の選考を行い、例年10月下旬頃に次代団員を決定・発表します。

団員育成プログラム(DDP)：11月～3月上旬

団員の決定・発表後、新規団員が全米大会で最大限の力を発揮できるように、運営局員が団員育成プログラム(DDP)を設計し、渡米までの約5ヶ月間実施します。

次代派遣：3月下旬～4月上旬

運営局員は次代の提携校決定、渡米の日程調整や大会への参加手続きなど、次代派遣団の渡米を計画し、団長は次代団員を引率します。また、渡米の間、国内との連絡等の調整は副団長が行います。

運営代交代：6月

大会を終えた次代団員は帰国したのち、事業報告会をもって代替わりを行い、運営局員はOBOGとなり後輩を見守ります。

運営局では以下の役職を分担し、協力しながら一年間の運営を全うします。

運営統括・団長

副団長

総務担当

選考プロセス担当

研究担当

団員育成プログラム(DDP)担当

英語DDP担当

渉外担当

渉外補佐担当

会計担当

OBOG担当

報告書担当

報告会担当

情報処理担当

運営を終えた第36代局員の言葉

運営を成り立たせるために、運営局にはありとあらゆる仕事があります。全米団では局員一人一人がそれらの仕事をもれなくカバーし、一つの組織を動かしています。また、自らが責任をもつ役職の仕事をきちんとできることが前提ですが、求めれば、探せば自らを成長させてくれる仕事が多くあります。そのような仕事に取り組むための「自己管理能力」や、全米団の置かれた状況に「気がつく力」、その中でやるべき仕事を自ら「探す力」、そして物事を「やり遂げる力」が総合的に育まれる環境だと感じています。

もっと知りたい！全米団！

ここまで事業の概観を説明してきました。「まだまだ聞き足りない！」と感じたあなたに、第37代運営局局員が全米団の魅力を語ります。今回は尾島(神戸研究会)、向後(国立研究会)、日山(神戸研究会)、水田(駒場研究会)にインタビューしました！

団員育成プログラム(DDP)を通してどのような変化がありましたか？

尾島：論理的思考能力やパブリックスピーキング能力が高められました。また、根気強くリサーチ、問題分析を行うことで精神力が身につきました。

向後：自分の強みと弱みを知ることができました。そして苦手に感じていたリサーチや論理的思考力が鍛えられました。

日山：DDPを通して論理的に物事を考えたり表現したりする方法を身につけることができました。

水田：問題を問題たらしめる構造や原因を突き詰めて考える、という経験を通じて日常生活における思考のレベルを深化させることができました。

渡米プログラムで印象深い思い出は何ですか？

尾島：全米大会です。提携校のペアと連携し、世界中から集まった学生達の高い意識に触れ、国際問題について議論ができたことは一生の思い出です。

向後：全米大会です。もちろん会議そのものも印象深いですが、会議を通じて仲良くなった人たちとともに食事をし、交流ができたことも思い出です。

日山：ブリーフィングです。世界の最前線でご活躍されている日本人職員の方々のお話を聞くことができ、その行動力と視野の広さに感銘を受けました。

水田：全米大会です。綿密に各国家の利害関係を調べ、議場で臨機応変に対応しながら国益を調整する世界中の大使との議論から刺激を受けることができました。

運営から学べることとは何ですか？

尾島：責任感と感謝です。運営を学生のみで行える点が全米団の魅力ですが、事業のためにも個人のタスクへの責任を感じます。同時にサポートしてくださる方の大切さを痛感します。

向後：チームワークです。全米団は少人数で運営をしているため、ひとりひとりの裁量は大きいですが、その分みんなが同じゴールに向かい、常に連携し、助けあうことが重要です。

日山：運営が始まって間もないですが、社会に出ても役に立つことを学生のうちから学べます。円滑に物事を進める術や仲間との信頼関係の大切さを日々感じています。

水田：事業運営は複雑な要素を勘案しながら行われていることを知りました。今日、社会で行われている様々な事業に対する見方が変わりました。

全米団に入る前と入った後で何が変わりましたか？

尾島：全米団への参加は私にとって大きな転機となりました。OBOGや渡米先の人々との出会いを通して、自分の目指す将来像が具体化できたように感じます。

向後：将来のヴィジョンが明確になってきたことです。ブリーフィング、OBOGの方々との交流、またDDPでの学びを通じて視野が広がり、自分の将来についてより真剣に考える機会が増えました。

日山：行動力です。渡米先で出会った方々との会話を通じて、何でも挑戦しよう！行動しよう！という気持ち、そしてもっと色々な人に会って視野を広げたいという気持ちが増し、交友関係をたくさん広げようと行動しています！

水田：様々な方々と問題に対する意見を交換する機会が増え、自分の考えを厳密に言語化するようになりました。

他の学生団体と比べた際の全米団の特長は何ですか？

尾島：チャンスの多さだと思います。渡米や準備期間はをもちろん、局員期間には運営を学生のみで行います。この2年の間で獲得できるものは想像超えます。

向後：お互いに高めあおう、という意思が強いところです。少人数で事業運営をするため、仲が良いだけではなく、時には相手のことを考えて批判的になることができ、それが自らの学びにもつながります。

日山：国際性と縦の関係の強さだと思います。渡米では様々なバックグラウンドを持つ方に出会い交流することが出来ます。また、全米団の縦の関係はとても強く、そして尊敬できる先輩に多く出会うことが出来ます。

水田：全米団事業を通じて得られる経験は単にNMUNへの参加にとどまりません。提携校との交流やブリーフィングなど、自身の知見を広める経験も多くできます。

ズバリ！あなたにとって「全米団」とは！

尾島：自分自身に挑戦し、成長できる場所だと思います。団員期間中、何度か壁に当たりました。しかし、渡米を終えた今振り返ると達成感を感じ、大きな糧となりました。

向後：常に刺激を与えてくれるコミュニティです。団員選出後の約半年間でたくさんの刺激を受け、成長することができました。今後約1年間、局員として刺激を受け、さらに成長していきたいです。

日山：「未来への一歩を踏み出せる場所」、だと思います。団員期は日本代表として渡米し、他にない貴重な経験をすることができ、局員期には全米団を運営することを通して社会にも役立つ力を得ることが出来ます。

水田：「変化」の場所だと思います。NMUNに向けた準備は僕に「変化」をもたらしてくれました。プログラムのいたるところに「変化」のきっかけが転がっていると思います。

Dear
Future Candidates

「全米団」という選択肢。

　あなたにとっての一つの選択肢として、「全米団」はあなたの挑戦を待っている。「全米団」への門は開かれている。昨年同じ門の前で立ち止まり、悩み、そして門をくぐった9人の運営局員から“未来の団員のあなたへ”言葉を贈る。

坂本 知陽
(Chiharu SAKAMOTO)

運営統括・団長

**“為せば成る　為さねば成らぬ
何事も成らぬは人の為さぬなり
けり”**

これはしばしば「為せば成る」と略され、「努力すれば達成することが出来る」と解釈される事が多いです。しかし、言葉の一部を切り取らずに解釈を考えると意味が変わります。少し意訳ではありますが私は、「何かを達成したいと強く思うのであればとにかく行動を起こすことが必要だ。達成できないのは行動しないからだ。」と捉えています。

さて、ガイドブックを手にしているあなたが大学生活で成し遂げたいこと、挑戦したいことはありますか？今一度、自分自身を見つめ直し、考えてみてください。もし、当事業に参加することが成し遂げたいことの達成に繋がるようでしたらぜひ一歩、踏み出してください。

新しいことを始めるために一歩踏み出すことはとても勇気のいることだと思います。私自身、全米団にアプライするときは悩み躊躇しました。しかし、行動しなければいつまでたっても達成できません。あなたの勇気ある行動を期待しています。

日山 実乃里
(Minori HIYAMA)

副団長・報告書担当・情報処理担当

“一歩踏み出して、見える世界を広げよう”

アプライするかしないか。これを読んでいる君は迷っているかもしれない。ただ１つ言えるのは、全米団は一歩踏み出すことで見える世界を広げてくれるということだ。

全米団に入ると、普通の大学生活では絶対に経験できないことができる。そして自分の努力や挑戦する気持ち次第で、自分をスキルアップさせることができる。団員期には、全米大会に向けプレゼン力や英語力が鍛えることができ、さらに渡米中は日々世界で活躍する方々や学生との出会いを通して多くの刺激を受けることができる。局員期には事業を運営する難しさを通して社会を知ることができる。

私自身、魅力あふれる全米団に強い憧れがあり、アプライした。団員期を通してお互い成長を共にするかけがえのない仲間ができた。今では運営代になり、自分が尊敬する先輩方の背中を追って日々努力している。

自分を信じ、そして一歩踏み出す勇気を出して、アプライしてほしい。

高橋 理都子
(Ritsuko TAKAHASHI)

総務担当

“「高貴な自由」の中であなたは何をしたいですか？”

大学生になって、皆さんは自由を謳歌していることでしょう。自由は、誰にも侵されることのない高貴なものだと思います。自己規律を伴いつつ選択の幅と可能性が広がっている「高貴な自由」の中に、私たちはいるのではないでしょうか。この自由を何に使うかは、私たち次第で如何様にも変わります。何もしなければただ時が流れゆくだけです。

「高貴な自由」の中であなたは何をしたいですか？

全米団応募前、私は「井の中の蛙大海を知らず」の状態で、ただ「高貴な自由」の大海を漂っていました。去年の夏に全米団を知り興味が湧いたものの、応募するか悩みました。この先に待ち構えるのは嵐か凪か、未来のことを考えると漠然とした不安があったからです。それでも、決断をするのは自分です。悩んだ末、私は全米団に舵を切りました。この選択に一片も後悔をしていません。なぜなら、この選択をしたことで、私は多くの出会いに恵まれ貴重な経験ができたからです。今は、思う存分悩んでいいと思います。決断の時が来たら、将来の自分が後悔しない選択を取ってください。人生の舵は、他の誰でもないあなたが握っています。どうか自分に素直でいてください。

「高貴な自由」の大海原で人生の舵を握っているのはあなたです。行き先は、あなた次第です。

横山 咲希
(Saki YOKOYAMA)

選考プロセス担当

“選択を正解たらしめるのは、その選択後自分がどう動くのか、なのではないでしょうか。”

この選択は本当に正しいのだろうか、後悔しないだろうか。このガイドブックを手にしている皆さんは、全米団に挑戦することに不安や迷いを感じているかもしれません。私も1年前、同じ不安を抱えていました。

今、私は全米団に入ったことを後悔していません。選択を正解たらしめるのは、その選択後自分がどう動くのか、なのではないでしょうか。努力や意志によって、あなた自身があなたの選択を「良いもの」にしていくのだと思います。皆さんが目標や自分を磨く意思を持って臨むのなら、全米団はチャンスの宝庫です。DDP・渡米・運営を通し、自分の長所短所や性格を知る、どっぷりと勉強する、尊敬できる素晴らしい人々と出会う、思考の練習をする、団体を動かす経験をするなど、学ぶことや刺激を受けるチャンスが沢山あります。

全米団で得られるチャンスを自分の糧とする覚悟や意志を貫けるのなら、全米団はあなたにとって十分すぎるくらい成長の機会を与えてくれるでしょう。全米団で成長したい、挑戦したい、自分を変えたい。そんな皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

出来 悠果
(Yuka DEKI)

研究担当

“ともに学ぶことを楽しみにしています。”

まずはガイドブックを手に取ってくださり、ありがとうございます。このガイドブックをここまで読んでくださったらお分かりになるかと思いますが、全米団では様々なことを体験できます。NMUNに向けて個々の能力を最大限向上させるDDP、提携校交流・ブリーフィング・NMUN参加など密度の濃い、3週間にわたる渡米、様々な人と協働する難しさや面白さを体験する運営など。私にとっては、これらすべては学びの連続です。その学びは、プレゼンの仕方など技術的なことから、より抽象的な、ものの考え方や考え方の多様さを知ることまで、多岐にわたるものです。もちろん、全米団に入って得られるものは人それぞれ違うと思いますが、誰であっても何らかの学びはあるのではないかと思います。そして、少しでも学びを得たいと思った方は、是非挑戦頂ければ嬉しく思います。

もし全米団に関することで質問や、アプライ前に知っておきたいことなどがございましたら、LINE@等を通してお気軽に私たちにご相談ください。皆様がよりよいご決断をするお手伝いをできれば、幸いに存じます。最後になりましたが、私は全米団で皆様とともに、新たなことを学んでいくことを楽しみにしています。

水田 光
(Hikaru MIZUTA)

団員育成プログラム(DDP)担当

“言葉では表現しきれないくらいの充実した出来事が皆さんを待っています。”

このガイドブックを読んで「楽しそう！」「挑戦してみたい！」と思った人もいれば「面白そうだけどちょっと英語が不安だな…」と思った人もいると思います。興味を持ってくださった方はぜひ参加してみてほしいです。その期待を裏切らないプログラムだと思います。また、不安だと思っている人もぜひ挑戦してみてほしいです。今このガイドブックの前で逡巡している皆さんはきっと、日常とは少し違う世界に身を置いてみたい、普通の大学生活では得られない経験を通じて自分を成長させたいと考えているのではないかなと思います。

全米団は非日常的なプログラムで、学びにつながる経験を提供します。一足先に迷い、選び、そしてやり切った先輩もサポートしてくれます。今までしたことのない経験を手探りで精いっぱいやってみて、そして遠く離れたニューヨークで取り組みの成果を発揮すべく頑張る。言葉では表現しきれないくらいの充実した出来事が皆さんを待っています。決して長くはない皆さんの大学生活の一部をささげるプログラムとして選んでいただけたら嬉しいかぎりです！

尾島 百合子
(Yuriko OJIMA)

渉外担当・会計担当

“Indecision is the greatest thief of opportunity.”

ここまでお読みになられた方は全米団に少なからず関心があるのではないでしょうか？

団員育成プログラムから運営までと全米団が提供するプログラムから得られるものは数多くあると思います。一度アプライをしてみるだけでも何か感じものはあるはずです。皆さんの中には、全米団は大変そうだという印象からアプライを迷っている方もいるかと思います。しかし、私たちも入団後先輩方から様々な支援をいただきました。今度は私たちが皆さんをサポートしますので心配する必要はありません。

OBOGの中には国連、外務省で活躍されている方など、コミュニティーのつながりは日本国内だけにとどまらず、世界までと広いです。全米団を通して出会う人々の多様性に触れることは、新しい知識や価値観だけでなく、自分自身についても知ることに繋がります。

“Indecision is the greatest thief of opportunity.”これは、アメリカの起業家であるジム・ローンの名言で、私自身がアプライをするときに勇気づけられた言葉です。決断をしなければ何も始まりません。全米団への参加という決断から広がるチャンスは想像を超えるでしょう。あなたにしか経験できない貴重な2年間にしませんか？ 皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

向後 大翔
(Hiroto KOGO)

涉外補佐担当・英語DDP担当

“過去を変えることはできないし、変えようとも思わない。なぜなら人生で変えることができるのは自分と未来だけだからだ。”

この言葉は私の尊敬する細菌学者・野口英世が遺した言葉である。私はこの言葉を何かに挑戦したいとき、そしてその勇気が出ないときに思い浮かべる。昨年の夏に全米団にアプライした時もその例外ではなかった。

今このガイドブックを手に取っている方も全米団へのアプライを前にさまざまな不安を抱えているのではないだろうか。英語力、論理的思考力、リサーチスキル。そのような不安があったとしても全米団にアプライすることをあきらめないでほしい。選考では自分の強みと弱みを知ることができる。そして、DDPでは自分の弱点を克服し、強みをのばすことのできる機会が用意されている。かく言う私もDDPがはじまったころには論理的思考やリサーチに苦手意識をいだいていた。しかしながら、NMUNまでの約5か月間ひとつの議題と正面から向き合い、自分なりの政策を立案し、NMUNにおいて交渉し、決議に盛り込むことを経験し、論理的思考やリサーチが苦に感じられることはほとんどなくなった。このように私は約5か月間で成長することができた。今後は第37代運営局の一員として全米団を運営することとなる。みなさんとともに成長しながら37年目を迎えた全米団事業をつくり上げていくことを心待ちにしている。

中村 紫英理
(Shieri NAKAMURA)

OBOG担当・報告会担当

“全米団は 驚き、喜び、そして学びの連続です。”

ニューヨークで全米大会に参加する、これは模擬国連を始めた高校生のときからの私の目標でした。目標を達成した時の安堵感と達成感はなんとも言えず、今でも鮮明に覚えています。

さて、みなさんは今、どのような気持ちでこのガイドブックを手に取っているでしょうか。アプライ前の私のようにワクワクしている人、英語力に不安を持っている人、ニューヨークで活躍したいという思いでいっぱいの人と様々だと思います。全米団の団員として選ばれるまでの選考期間、渡米までの準備期間、そして渡米してからの大会期間、難しい課題を抱えることも多く、どの段階にも大変な事はあると思います。しかし、同期の仲間たちをはじめ、先輩方や提携校のペア、議場で出来る友達が必ず支えてくれます。きっと大丈夫です。

全米団では今までの人生で経験してこなかったことをたくさん経験できます。驚き、喜び、そして学びの連続です。この経験は自分を大きく変えてくれるでしょう。今秋に団員としてお会いできることを楽しみにしています。

よくある質問

皆様からいただいた質問の中でも、特によくいただくものに答えます。

Q.参加費用はどのくらいかかるの？

例年、協賛してくださる財団様・企業様、JMUNのご支援のもと15万円前後で渡米します。(毎年、参加費は多少変動します。これは、あくまで参考です。)

Q.選考プロセスの情報がほしい！

基本的に情報は適宜全米団メーリス、全米団FacebookやTwitter、LINE公式アカウントでお知らせしています。現時点(6月2日時点)でお知らせできる情報は以下の通りです。

［選考日程概要］
8月1日 応募開始
8月頃 応募期間
9月～10月頃 選考期間
詳細な選考日程は、選考応募開始(8月1日)と同時に開示される応募要項に掲載されますので、そちらの方をご確認ください。公開までお待たせして申し訳ありませんが、もうしばらくお待ちください。

Q.全米団は忙しいと聞くけれど実際どうなの？

忙しくなるのは事実です。しかし、それに見合った、もしくはそれ以上の経験と成長が得られます。研究会との兼ね合いも気になると思います。第36代運営局局員は研究会会長・研究統括・総務統括などを、第37代運営局局員は全米団と研究会副会長・総務統括などを両立させています。また、アルバイトをしたり、他の学生団体やサークルの運営を兼任したりしている局員もいます。DDP期間中のDDP開催頻度は毎年変わります。DDP紹介コーナーの説明をご参照ください。

Q.英語得意じゃないけど大丈夫？

英語力が重要なことは間違いありません。しかし、それは全米団に限った話ではありません。多くの方が、選考プロセスにおいて英語力がどの程度重視されるのかご質問されますが、選考の具体的な採点基準に言及することはできません。しかし、英語力のみをみて団員を選ぶことはありません。応募者の方の多様な能力を加味した上で選考を行います。また、DDP期間に英語力の向上を図ります。「英語力」を理由に全米団に入ることを諦めてしまうのは非常にもったいないということは確かです。

その他の質問がありましたら、お気軽にお尋ねください。全米団LINE公式アカウントや各種SNSをご利用ください。また、お知り合いの全米団局員にもお気軽にお声がけください。

HP・SNSのご案内

全米団HP

リンク：https://nmun-jpn.jimdo.com

各種SNS

Facebook

Twitter

Instagram

YouTube

LINE@

その他

全米団では全米団メーリングリストを運用し、当事業開催の各種イベントのお知らせをしています。登録ご希望の方、何かご不明な点がある方は総務の高橋までお尋ねください。

総務：ga_nmun@jmun.org

第37代運営局員紹介

役職	氏名	所属大学	研究会
運営統括・団長	坂本 知陽	同志社大学・2年	京都
副団長 報告書担当 情報処理担当	日山 実乃里	大阪大学・2年	神戸
総務担当	高橋 理都子	津田塾大学・2年	国立
選考プロセス担当	横山 咲希	上智大学・2年	四ツ谷
研究担当	出来 悠果	一橋大学・2年	国立
団員育成プログラム (DDP)担当	水田 光	東京大学・2年	駒場
渉外担当 会計担当	尾島 百合子	関西学院大学・2年	神戸
渉外補佐担当 英語DDP担当	向後 大翔	国際基督教大学・2年	国立
OBOG担当 報告会担当	中村 紫英理	青山学院大学・2年	日吉

＊当事業に関するお問い合わせはga_nmun@jmun.org（総務 高橋理都子）までお願いします。

後援先

（第36代の例）

外務省

文部科学省

国際連合広報センター

UNDP駐日代表事務所

在東京アメリカ合衆国大使館

在東京オランダ王国大使館

助成団体

公益財団法人 三菱UFJ国際財団

公益財団法人 平和中島財団

公益財団法人 双日国際交流財団

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

EXPO'70 FUND

（公財）関西・大阪21世紀協会